

～題材：人間関係をつくるあいさつ～

【ねらい】

相手の気持ちを考えながら、気持ちの良いあいさつをすることができるようにする。



【写真①：板書】

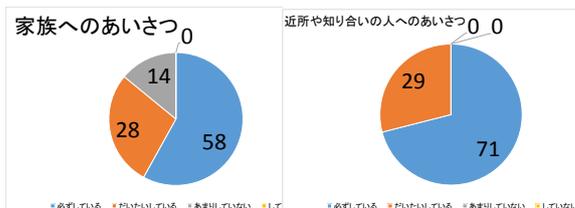
【学習過程（略案）】

5月17日（木）5校時

過程	主な学習活動	指導上の留意点
つかむ	1 挨拶についての意識調査から、分かったことを話し合う。 ○ 日常生活の中で、どのように挨拶をしていますか。 〔・家族や近所の人にはよく挨拶できているな。〕	○ グラフの数値と自分たちの挨拶の実態を比較し、本時の学習のねらいを理解させる。
考える	2 生活の中で挨拶が必要な理由について考える。 ○ 挨拶をすることで心がすっきりした経験はありますか。 ○ 挨拶には、どのような役割があると思いますか。 〔・朝学校に来たときに友だちから挨拶されたらうれしいな。 ・先生や近所の人に、自分から挨拶するとすっきりするな。〕	○ 「挨拶は、生活の潤滑油」という視点から交流させ、挨拶は、人間関係を形成する上で、必要不可欠なものであることに気付かせる。
見つける	3 修学旅行で出会う人にあいさつをすることを知り、コミュニケーションの大切さについて考える。 ○ 挨拶で相手にどのような思いを伝えたいと思いますか。 〔・相手への礼儀や好意を伝えたい。 ・相手のことを知り、仲良くしたい。〕 ○ 挨拶のよさとは、どのようなことですか。 〔・どんな人とも仲よくなれる。 ・自分も相手も気持ちよくなる。〕	○ ロールプレイを通して、挨拶を比較し、お互いの気持ちについて考えられるようにする。
決める	4 挨拶をするときに気を付けることを決める。 ○ みんなで話し合ったことから、挨拶についての自分のめあて決めましょう。	○ 「どの場面で」「どんなことに気を付けて」「どのように」するのかを意思決定させる。

指導のワンポイント

- 「つかむ」過程での工夫
意識調査の結果をグラフにして、視覚的に分かるようにした。
- 「さぐる」過程での工夫
生活の中で挨拶が必要な理由について考えるために場面設定を提示した。
 - ・あいさつされたときとあいさつされなかったときの気持ちを考えた。
 - ・あいさつしたときとあいさつしなかったときの気持ちを考えた。



- めあてについて
来週に予定されている修学旅行を、あいさつの力で最高のものにしようと、意欲的に実践につなげるめあてを設定した。
- 「見つける」過程での工夫
 - ・ロールプレイを取り入れることで、相手にどのようなあいさつをしたらいいのかを具体的に考えることができると考えた。
 - ・友達の演技を見て、「もっと声の大きさを考えた方がいいよ。」とか「笑顔の方がいいよ。」などアドバイスもあり、言葉だけでなく表情についても考えるのに有効な指導法だと考えた。
- 「決める」過程での工夫
 - ・本時の感想を書いた後に、「あいさつキラリカード」に修学旅行でどんなあいさつをするか意思決定させ、修学旅行に実践させる。(カードは、しおりに貼るように指導した)



【写真②：ロールプレイの様子】

成果

- 場面を設定したり、ロールプレイしたりして話し合うことで、あいさつは自分や相手の気持ちを変えることができる不思議な力を持っていることに気付くことができた。
- 意思決定の場面では、「笑顔で」「相手の目を見てほほ笑んで」「立ち止まって」「握手する」など、あいさつの言葉だけでなく、表情や行動にも気を付けることを発表することができた。
- あいさつの後に会話を続けることも大切だと気付いた。コミュニケーション能力につながると思った。

アドバイス

- ロールプレイをする前に子どもたちとの打合せの時間をとり、場面の説明をさせてから演技をするようにしたほうが良い。緊張や照れが予想されるので、安心して取り組める雰囲気をつくるなどの工夫があればより実践に近くなると考える。